



日本海海戦裏話

客員相談役 藤井 基之



先月号は正岡子規に関連した話でしたが、今回は同じ『坂の上の雲』の主人公の一人、秋山真之が係わった日本海海戦の話です。

秋山真之は日露戦争の日本海海戦で、東郷平八郎海軍大将の参謀として連合艦隊を率いて、当時、世界最強といわれたロシアのバルチック艦隊と戦って大勝利をおさめました。

この日本海海戦を勝利に導いた戦法が、いわゆる丁字型戦法。日本海を北上してくるバルチック艦隊を連合艦隊が迎撃したのですが、バルチック艦隊とすれ違う直前、いきなり連合艦隊は戦艦の向きを変え、縦列で進んでくるバルチック艦隊の目前に、横一線に並んで行く手をさえぎり、攻撃を開始したそうです。ちょうど丁という字の横棒が連合艦隊、縦棒がバルチック艦隊

という配置になったわけですから。敵の軍艦に横腹を見せるわけですから危険のように感じますが、当時の戦艦は大砲が横腹に並んで据え付けられていたため、砲撃がしやすい。一方、ロシア側は、艦首には少数の砲しかなく、縦列になっているバルチック艦隊は先頭の艦しか応戦できず、また舷側の砲は打てない。この戦法が図に当たり、緒戦で連合艦隊は大勝利をおさめ、わずか二日でバルチック艦隊を壊滅させてしまいました。と、これは痛快な日本海海戦の話ですが、作家吉村昭は『海の史劇』という小説で、バルチック艦隊側からみた日本海海戦を描いています。

バルチック艦隊は旅順などにあったロシア太平洋艦隊と合流し、日本艦隊と戦うために、一九〇四年（明治

三十七年）九月五日、フィンランド湾の奥のサンクトペテルブルグにあるロシア最大の軍港クロナスタット港を出港した、という場面から物語が始まります。日本海海戦は翌年の一九〇五年五月二十七日に始まったのですから、その八ヶ月ほど前に出発したわけですから、それからが大変。バルチック艦隊はバルト海を進み、北海に出、南下してイギリスとフランスの間を縫うドーバー海峡を抜け、スペイン沖を経てアフリカ西岸沿いに大西洋をさらに南下していきます。そして、アフリカ最南端の喜望峰を過ぎ、アフリカの東海岸を北上、マダガスカルを過ぎた後、インド洋を横断、スマトラ島の北側からマラッカ海峡を通過し、ボルネオとマレー半島の間を抜け、南シナ海へ。そして、フィリピン沖を通過して東シナ海

に。地球を半周して、一九〇五年五月二十七日にようやく九州の西側海域にたどり着きました。この八ヶ月間のバルチック艦隊の航海を克明に描いたのが吉村昭の小説ですが、まあ大変な航海。読んでいて気の毒になるほどです。

当時、日英同盟を結んでいた英国は、艦隊の航路を阻もうと先々で嫌がらせをします。特に、北海を航行中にバルチック艦隊がイギリスの漁船を日本の水雷艇と誤認して砲撃したことから激怒。以後、バルチック艦隊をイギリス海軍が追尾するなどしたため、兵士は

神経を消耗させられっぱなしでした。イギリスの植民地であるアフリカ諸国は、入港を拒否。石油、食糧の積み込みもままならず、兵士は久しぶりの上陸もできない。アフリカの猛暑は北国ロシア兵にとっては初めての体験で、艦内訓練をしようにも日射病で倒れる兵士が続出しました。そしてマラッカ海峡を始め、行く先々で日本軍が待ち構えているという情報が乱れ飛び、兵士たちは心を休めるときもない状態で幾夜も過ごすという始末。苦難の大航海をようやく終え、日本海にたどり着

くと、そこには日本の連合艦隊が今や遅しと待ち構えていたわけです。

東郷平八郎や秋山真之の作戦も見事だったのですが、八ヶ月もの苦難の大航海後の決戦は、疲労困憊の兵士にはさぞ大変な戦闘だったでしょう。歴史にはいろいろ裏もあるものです。

政治の世界も同じように裏に隠れた話も多いのですが、指導的立場にある政治家のお金にまつわる「裏話」は、いただけません。説明義務を果たしてほしいものです。

ふじい もとゆき
藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ

http://www.mfujii.gr.jp/

- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条

私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会創りです。

高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何が必要か、を政治活動の根底においています。

好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」

- 活動報告

参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。

- 経歴

昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 専務理事

平成12年 日本薬剤師連盟 副会長
社団法人日本薬剤師会 常務理事

平成13年 参議院議員

平成16年 厚生労働大臣政務官
(平成16年9月~平成17年11月)

平成19年 日本薬剤師連盟 顧問

- その他

慶應義塾大学薬学部 客員教授
昭和大学薬学部 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
京都薬科大学 客員教授
近畿大学薬学部 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師